

## 2014 年度第 3 回理事会 議事録 案

開催日時および開催場所：2014 年 11 月 1 日 13：30-15：30 福岡県福岡市，福岡大学 18 号館 1824 号教室。

出席者：井口正人，篠原宏志，市原美恵，下司信夫，嶋野岳人，千葉達朗，中田節也，西村太志，橋本武志，藤田英輔，萬年一剛，吉本充宏（12 名）。

委任状提出者：宇都浩三，北川貞之（2 名）

### 議題

#### 第 1 号議案 特定非営利活動法人日本火山学会定款修正案

庶務担当理事より，特定非営利活動促進法の改正に対応し東京都の指示により定款の文言を修正する旨，合わせて一部語句の修正を行う旨の説明を行い，定款の修正案を提示した。定款の修正案については特に意見はなく，原案通り総会の審議を行う旨承認された。

#### 第 2 号議案 特定非営利活動法人日本火山学会運営細則修正案

常設委員会の設置規程の新設（第 5 号議案）に関連して，運営細則第 2 条の委員会についての条項に，委員の任命手続きについての規定を追加すること，および会費についての条項を第 8 条として新設することについて，庶務担当理事より修正案が提示された。修正案については特に意見はなく，原案通り総会の審議を行う旨承認された。

#### 第 3 号議案 特定非営利活動法人日本火山学会総会運営細則の新設案

総会の運営細則を新設する提案が庶務担当理事より行われ，総会運営細則案が示された。細則案について特に意見はなく，原案通り総会の審議を行う旨承認された。

#### 第 4 号議案 特定非営利活動法人日本火山学会理事会運営細則の新設案

理事会の運営細則を新設する提案が庶務担当理事より行われ，理事会運営細則案が示された。細則案について特に意見はなく，原案通り総会の審議を行う旨承認された。

#### 第 5 号議案 常設委員会設置規程の新設案

各委員会より提示された常設委員会の設置規程案および，原子力問題対応委員会の設置規程案が庶務担当理事より提示され，原案通り総会の審議を行う旨承認された。

#### 第 6 号議案 旅費・謝金規程の新設案

日本火山学会の会員および非会員に対する火山学会業務のための旅費および謝金の規程案が庶務担当理事より提示され，原案通り承認された。

## 第7号議案 名誉会員の推挙

井田喜明会員 宇井忠英会員 兼岡一郎会員 平林順一会員を名誉会員候補として総会に推薦する案が庶務担当理事より提示され、合わせて各候補者に関する推薦文が示された。これら4名を総会に推薦する旨了承された。

## 第8号議案 定期大会及び学術講演会等開催細則の新設

秋季大会等の定期大会および学術講演会の開催に関する細則の新設案が大会担当理事より提示された。一部文言の修正を行い、細則の新設について了承された。

## 委員会報告事項

### 1. 庶務委員会関連

会員の入退会動向が報告された。2014年5月の通常総会后、38名の入会があった（維持会員3名、学会会員30名、一般会員5名）。また、18名が退会し、8月末日をもって8名の会員が会費未納により除名された。また、2名の会員が逝去された。以上により、総会時の総会員数は1020名である。また、定款及び細則の修正により、会員の内訳が定款に定める通り維持会員、学会会員および一般会員の3つに統合され、これまでの集計にあった名誉会員及び団体会員はそれぞれの区分に振り分けられた。

### 2. 大会委員会関連

2014年秋季大会について、開催内容について報告された。

今後の秋季大会実施計画について、2015年度の富山大会についての実施概要が報告された。また、2016年及び17年の開催候補案が提示された。具体的な実施計画案が提出された段階で開催の可否を理事会で検討することとなり、引き続き実行委員候補で計画案を作成することとなった。

2015年度の連合大会における火山学会を提案母体とするセッション提案について報告された。セッション提案は以下の通り。

火山の熱水系（藤光）、活動的火山（青木）、火山噴火のダイナミクスと素過程（小園）、津波堆積物（西村）火山防災の基礎と応用（萬年）、火山・火成活動（及川）、火山モニタリング（青木；国際）、ジオパーク（大野）。

なお、今後は計画的なセッション提案を行うため、これまで提案後に火山学会に対してセッション提案内容を報告してもらっていたが、今後は事前にセッション提案内容を提示してもらい、セッション間での調整を大会委員で行う方針であることが報告された。

大会委員会内の手続きとして、今後の秋季大会の開催地・開催機関等の決定について手順を明文化することが報告され、手順書の案が示された。

大会委員のうち、市原美恵委員を退任とし、代わりに鈴木雄治郎会員（東京大学地震研究所）に交代する旨報告され、了承された。

### 3. 編集委員会

「火山」発刊状況および編集状況について報告された。また、「火山」への投稿数が減少している問題、投稿原稿のオリジナリティに関する基本方針、電子投稿に合わせた投稿規定の改訂について検討する旨報告された。

### 4. 他学会関連委員会

EPS 誌の運営委員会の議論内容および投稿出版状況について説明された。東北地震特集号で上昇した IF が、現状の投稿状況では今後低下することが予想されるため、積極的な投稿および引用をお願いしたい旨報告された。

### 5. 学校教育委員会

島原市にて開催された第 15 回地震火山こどもサマースクールの開催について、内容が報告された。また企画運営を含む実施体制の問題点があることから、開催地の選定、人事、予算、プログラム内容の管理監督を地震学会、火山学会、地質学会で行う旨報告された。

### 6. ジオパーク支援委員会

ジオパーク支援委員会の活動に関して報告が行われた。8 月 28 日の日本ジオパーク委員会において、新たに 3 地域の日本ジオパークが承認された。火山関係では「紀伊半島」、「立山黒部」が承認された。9 月 21 日の第 6 回ユネスコ世界ジオパーク会議において、「阿蘇」の世界ジオパーク・ネットワーク入りが認められた。また、秋季大会中にジオパークの公開セッションが開催される旨報告がされた。

### 7. 国際委員会

IAVCEI 小委員会の委員の交代（富樫茂子委員が退任、山岡耕春、鈴木桂子氏が新任）が了解された。

アジア火山コンソーシアムについて、ワーキンググループメンバーが決定（小園、市原、青木、前田、森）。6 月および 8 月に ICVGHM（インドネシア）、PHIVOLCS（フィリピン）事前打ち合わせ実施。COV8 にて上記 2 機関に EOS, USGS, RVO を加えたメンバーで Agenda の内容等についての議論を行った。

今後の予定として、2015 年 2 月 4-5 日に、コアメンバーミーティングを日本国内で開催する。インドネシアで開催されるタンボラ 200 周年記念 (2015 年 4 月 13-14 日) に

合わせて、第1回 AGV ワークショップの実施を予定しており、にあたり、若手支援のための具体的なプログラムを開始する。同ワークショップについては会員への周知や、参加の推奨を行うことが報告された。

## 8. 防災委員会

平成 26 年度火山防災委員会シンポジウムを地球惑星連合大会期間中（4 月 28 日）にパシフィコ横浜にて開催し、講演と総合討論をおこなった。

平成 26 年度「火山防災のためのコンピューティングワークショップ」を 10 月 10 日～13 日に日本大学文理学部にて開催した。参加者数は 18 名で、（うち 5 名が学生）であった。

3. 秋の火山学会において、防災シンポジウム（公開）（「九州の火山活動の現況と観測体制、防災体制」山里平鹿児島地方気象台長、および「九州の火山における火山噴火予知と災害予測-インドネシアの火山噴火からのフィードバック」井口正人京都大学防災研究所教授を実施する。また、御嶽山災害を受けた緊急防災シンポジウム（学会員対象）を実施する。3 講演（「2014 年噴火の推移と災害、登山者向けの防災体制」及川輝樹氏）、「噴火時の観測体制と情報伝達」山岡耕春氏、「災害担当部局への情報伝達」石峯康浩氏国立保健医療科学院）およびパネルディスカッションを実施する。

## 9. 60 周年事業委員会

各ワーキンググループの活動状況及び、今秋季大会における 60 周年記念シンポジウムの実施について報告された。WG1 では、火山学最近 20 年間のレビューを「火山」特集号として取りまとめる方針である。WG2 では、火山学の社会貢献として、教育現場等への火山学・火山専門家の活用や、社会ニーズにこたえる形での新期ニーズの開拓の可能性について検討する方針である。WG3 では、人材育成について検討を行う方針である。今秋季大会の 2 日目の午前にシンポジウムを実施し、各ワーキンググループの活動に基づく基調講演と総合討論を行う予定である。

来年度の 60 周年記念事業について、活動の節目である 60 周年を学会の内外に意識させることを目的として、秋季大会に合わせて記念式典を行うことが提案され、実施にむけて大会委員会と協力して検討することで了承された。

## 10. 原子力問題対応委員会

7 月 16 日に行われた第 2 回委員会の議事内容が報告された。また秋季大会期間中に第 3 回委員会を開催する予定であり、そこで原子力問題対応委員会としての提言をまとめ、総会に報告する予定であること、また、巨大カルデラ噴火問題全般についてもカバーするため、原子力問題対応委員会を発展解消し、新委員会に移行する予定であることが報告された。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成 26 年 11 月 1 日

議長 井口正人

議事録署名人 篠原宏志

市原美恵